

(改善の具体的方策)

特に改善を要する具体的なポイントは見当たらないが、カリキュラム委員会を中心に総合政策学部の特徴をよりいっそう生かせるような導入教育のあり方を引き続いて検討していく。

キャンパス・ミーティングに多くの学生の関心を集められるように、情報提供を徹底させなければならない。

8.1.4.3 教育方法のあり方

【評価項目6-3-1】 授業形態と授業方法の関係

(必須要素) 授業形態と授業方法の適切性、妥当性とその教育指導上の有効性

(必須要素) マルチメディアを活用した教育の導入状況とその運用の適切性

(必須要素) 「遠隔授業」による授業科目を単位認定している大学・学部等における、そうした制度措置の運用の適切性

<2003 年度に設定した目標>

1. 言語教育、演習における徹底した少人数クラスを維持し、良好な教育環境を保持する。
2. 教育機器、設備の更新充実をはかり、より効果的な授業環境を整備する。
3. 聴覚障がいのある学生に対する効果的な授業方法の開発を行うため、〈ユニバーサルデザイン教育研究センター〉を開設する。

(現状の説明)

総合政策学部の授業形態と授業方法の大きな特徴は、開設当初から積極的に実施している少人数教育と従来の講義形式に加えて、受講生が能動的に関わることの出来る参加型の形式を多く取り入れていることである。

1. 少人数教育について

総合政策学部では演習形式の授業（基礎演習Ⅰ・Ⅱ、研究演習Ⅰ・Ⅱ、メディア工房、メディア情報演習）、言語教育科目（英語コミュニケーション、選択外国語（ドイツ語、フランス語、中国語）、日本語）、情報関連科目（情報演習、コンピュータ演習）、実習などにおいて、人数制限を行い、少人数編成で効果的な教育環境が整えられている。基礎演習Ⅰは18名、基礎演習Ⅱは15名、研究演習Ⅰ・Ⅱは17名、メディア工房は18名、メディア情報演習は18名、英語コミュニケーションは20～30名、選択外国語は40名、日本語（留学生対象）は15名、情報演習は35～40名、コンピュータ演習は40名、実習は15名となっている。他にも、要約筆記講座を内容とする実習形式の政策トピックスAなどにも20名という人数制限を設け、受講者が上限を上回る場合には抽選を行って決定している。

2. 授業形式について

総合政策学部では、少人数の演習授業だけでなく、一般の科目においても、受講生の積極的な授業参加を促すような参加型の授業運営を取り入れている。受講生を数人の

グループに分けて、与えられたテーマについて受講生自身が考え、話し合うことのできるグループワーク、授業中に受講生がパワーポイントなどの視聴覚機器を使って効果的に自分の研究成果や調査結果を発表し、フロアの学生と討論するプレゼンテーション形式、授業の内容に関する質問や意見を直接教員に伝えるコメントペーパーの配布など、参加型の授業形式が実施されている。演習形式の授業では、主に基礎演習Ⅰを中心として学生同士による、ディベートが盛んに行われており、春学期には複数のクラスが合同で合宿を行い、大規模なディベート大会が催されている。

また、授業において様々なマルチメディア機器が使用されて、効果的な授業が工夫されている。ビデオ、CD、DVD、OHP、OHCなどに加えて、パソコンによるパワーポイントを使って授業内容を分かりやすく伝えるようしている。

遠隔授業は今のところ一部の科目で行われているのが現状である。2004年度の総合コース「在日朝鮮人問題AB」、2005年度の「中国総論」では、西宮上ヶ原キャンパスと結んで遠隔授業が実施された。

3. ユニバーサルデザイン研究センターと教育機器設備の更新

聴覚障がいのある学生に対する効果的な授業方法の開発を行うため、神戸三田キャンパスⅠ号館119号研究室に〈ユニバーサルデザイン教育研究センター〉を開設した。このセンターは、聴覚障がい、視覚障がい、運動機能障がい等を持つ学生に最大限の教育機会を提供することを可能にする授業および教育システムの開発と専任教員自身の能力開発プログラムの開発と研究を目指す。2004年度の研究計画は以下の通りである。

- ① 学生ボランティア育成を目的とした講座の開講とその実施内容に関する研究。
- ② 主として聴覚障がいのある学生を対象として、障がい者の学習・研究支援において必要とされる教育機器、設備の検討を進める。
- ③ 人権教育との連携に関する研究を進める。

4. マルチメディア等

現在、各種の演習、英語コミュニケーション、選択外国語などのクラスにおいて、授業効率の面から、受講者の人数に一定の制限を設けている。一部の授業、例えば全学対象の人権関係の総合コースなどでは、西宮上ヶ原キャンパスで行われている授業を、「遠隔授業」として、神戸三田キャンパスの学生も受講できるように、配慮している。また3号館のメディア情報学科では、「マルチメディアルーム」を設置している。この「マルチメディアルーム」は、コンピュータ・グラフィックやウェブ・デザインなどの映像撮影・編集機能やデジタル・サウンド・クリエーションのような録音・編集機能、および大型印刷設備を備えた教室である。

神戸三田キャンパス2号館102教室を中心に、西宮上ヶ原キャンパスとの遠隔授業のため、適宜、設備を更新しているほか、各種の授業・イベントで活用している。同3号館でも、マルチメディアルーム等の設備について、新機種の導入やリニューアルに努めている。同時に、大型教室等の設備更新と平行して、小型の可搬式の機器を購入して、各種の授業でパワーポイントなどを利用したFDの向上を図っている。また、教材用ネットワーク・ドライブを利用して、講義のレジюмеなどを随時利用できるようにした授業が増えるなど、情報機器の有効な利用が進んでいる。

教育機器、設備の更新に関して、現在整備した機器は以下の通りである。点字プリンターDOG-Multi、セットアップ基本セット、点字ソフトEXTRA、デスクトップPC、オートドキュメントフィーダ、OCRソフトe.Typist、音声ソフトJAWS、音声ソフト95Reader、点字編集システム、点字ディスプレイBN26X

(点検・評価の結果および改善の具体的方策)

目標はおおむね達成されている。少人数教育や授業形式の工夫については、今後、教務主任を中心として、さらに充実させていく。聴覚障がいの学生に対する効果的な授業方法の開発を行うため、〈ユニバーサルデザイン教育研究センター〉を開設し、目標は達成された。教育機器、設備の更新も円滑に進んでいる。一定の期間を経て、機器・設備の見直し、更新を継続していく。今後は、遠隔授業の行える教室の拡充を検討する必要がある。

8.1.4.4 教育成果のあり方

【評価項目6-4-1】 教育効果の測定

- (必須要素) 教育上の効果を測定するための方法の適切性
- (必須要素) 教育効果や目標達成度及びそれらの測定方法に対する教員間の合意の確立状況
- (必須要素) 教育効果を測定するシステム全体の機能的有効性を検証する仕組みの導入状況
- (必須要素) 卒業生の進路状況
- (選択要素) 教育効果の測定方法を開発する仕組みの導入状況
- (選択要素) 教育効果の測定方法の有効性を検証する仕組みの導入状況
- (選択要素) 教育効果の測定結果を基礎に、教育改善を行う仕組みの導入状況
- (選択要素) 国際的、国内的に注目されるような人材の輩出状況

【評価項目6-4-2】 厳格な成績評価の仕組み（成績評価法）

- (必須要素) 履修科目登録の上限設定とその運用の適切性
- (必須要素) 成績評価法、成績評価基準の適切性
- (必須要素) 厳格な成績評価を行う仕組みの導入状況
- (必須要素) 各年次及び卒業時の学生の質を検証・確保するための方途の適切性
- (選択要素) 学生の学習意欲を刺激する仕組みの導入状況

<2003 年度に設定した目標>

1. 英語教育の成果に関する調査を継続する。
2. 履修科目登録の上限の適正化を検討する。
3. 2005年度からGPA制度を導入する。
4. 成績優秀者に対する顕彰制度を検討する。

(現状の説明)

総合政策学部の教育成果の測定は、各科目の担当教員による定期試験・平常評価等を主たる評価基準として、「優」「良」「可」「不可」の4段階評価を行ってきたが、2000年度から全学的な評価基準の改善に伴い、「優」(80-89)の上に「秀」(90-100)を設けて5段階とした。これは成績上位者にさらなる学習への動機付けが生まれることを期待したものである。(「Ⅱ 全学的な教育・研究に関する事項」の「2.4 教育内容・方法 2.4.3 教育成果のあり方」参照)